# 令和７年沼津市教育委員会第８回定例会会議録

１　日　時　　令和７年８月21日（木）
　　午後３時00分～午後４時32分

２　場　所　　沼津市役所３階　委員会室

３　日　程
(1)　開会
(2)　会議録署名人の指名（土屋委員　重光委員）
(3)　教育長報告
(4)　議案
(5)　協議事項
(6)　報告事項
　報告事項１　中学校部活動の地域展開（地域移行）の取組について
　報告事項２　沼津市立沼津高等学校入学者選抜のWeb出願について
(7)　その他
(8)　報告事項
　報告事項３　令和７年度全国学力・学習状況調査について

４　出席者等
教育長　奥村篤、教育長職務代理者　佐藤清子、委員　土屋葉子、委員　川口浩史、
委員　重光純、教育次長　金子昭人、教育指導監兼学校教育課長　飛田直和、
教育企画課長　内村一徳、教職員研修センター所長　長島須美子、
沼津市立沼津高等学校事務長　藤井義昭、調整担当・教育企画課長補佐　齋藤大輔、
教職員研修センター指導主事　青木崇人、教育企画課指導主事　内村宗靖、
教育企画課主任　岩崎雄

５　会議内容
(1) 開会
　奥村教育長が午後３時00分開会を宣言する。
奥村教育長　　改めまして、残暑お見舞い申し上げる。子供たちの夏休みも残すところあと６日となった。私の子供の頃であるが、この時期は夏休みの宿題終了の焦りを感じつつ、ラストスパートを開始する頃だった。８月７日は立秋であったが、「立秋」という言葉の涼しい響きだけが素通りしてしまったかのような暑さが続いており、先週まで連日ニュースで、経験したことのない危険な暑さ、災害級の暑さというフレーズが聞かれた。８月６日には静岡市で41.４度という観測史上、日本２位タイの暑さであった。本日の定例会も、体調に十分留意し、水分をしっかり取りながら進めて参りたいと思う。一方、青森、秋田では19日から断続的に発達した雨雲がかかり、記録的な大雨となっている。24時間に降った雨の量が、例年の８月１か月分ほどの雨量に相当するとのことで、８月としては統計を取り始めて、最

も多い雨量ということで、各地で川の氾濫が発生している。今日以降は線状降水帯が発生する恐れがなくなったようであるが、これまでの雨で秋田県では、土砂災害警戒情報が発表されている地域もあり、厳重な警戒が必要とのことである。また一方、今度は南の九州の西の海上には熱帯低気圧があり、明日22日未明までには台風に発達して、鹿児島県に上陸するというような予報も出されている。九州地方は御承知のとおり、つい先日も線状降水帯による大雨特別警報が出され、大規模な災害を受けたばかりで、日常生活が取り戻せていない地域がまだまだ多いと思われる。気候変動がもたらす今まで見たことのない自然災害、これは今後も後を絶たないと思う。対岸の火事ではない。危機意識を高め、危機回避に向けた備えをしておきたい。

(2) 会議録署名人の指名

奥村教育長より、会議録署名人に土屋委員、重光委員を指名する。

奥村教育長より、本日の会議は一部非公開とすることを委員に諮り、了承される。

傍聴人　１人

(3) 教育長報告

奥村教育長　８月４日、静岡県中体連大会で激戦を勝ち抜き、優勝あるいは入賞を果たした53名の選手が、全国大会及び東海大会への出場権を獲得して、市役所を表敬訪問した。各種目の選手たちは東海大会や全国大会出場への抱負を語り、沼津市の代表としての力強い意志や、個々の貴き志を感じさせるようなコメントを述べていた。結果にかかわらず、出場選手にとってさらに高いレベルでの大会経験が、貴重なものとなって今後の人生の肥やしになることを期待している。この出場される生徒の皆さんには、私からは労いと励ましの言葉を伝えさせていただいた。一部を紹介する。ここに至るまでには、辛いこと、やめたくなるような気持ち、仲間同士の喧嘩などいろいろあったと思う。それを乗り越えての今回の結果、練習は裏切らない、努力は報われるという言葉をよく耳にするが、これは並大抵なことではないと思っている。皆さんが、練習メニュー、感情のコントロール、睡眠などの体調管理など、自分で考え、大変な努力を続けてこられた結果ではないか。では、自分自身が努力を続けられたのはどうしてか。皆さんはすでにわかっていると思うが、そこには、一番身近な御家族の支えがあったからである。栄養面などの食事、送迎等は言うまでもない。それから、顧問の先生やコーチからアドバイスをいただき、チームメイトや友人からの励ましなど、こういうものがあってのことである。多くの方々が皆さんを見守り支えてきたことは、絶対に忘れてはいけない、と同じ会場で御家族が見守る中、話をさせていただいたところである。それからもう一つは、８月17日、沼津市総合体育館香陵アリーナにおいて、沼津千本ライオンズクラブが主催する、特別支援学校に通う子供たちを対象とした「2025キラキラ★ドーン」というイベントに市長と一緒に参加をさせていただいた。昨年から始まったこのイベントであるが、大人から子供まで音楽を楽しみながら一緒に体を動かすことができ、オリジナル楽器を作るイベントやパン食い競争、玉入れなど親子で参加できるプログラムが充実していた。実際に会を運営・進行し

ていたのが地元の高校サッカー部や小中学生の野球クラブチームで、ボランティアで参加しながら特別支援学校の子供たちに寄り添う姿がとても好感が持てた。部活動の地域展開で、吹奏楽の実証事業に参加している「沼津ブラス・フロンティア」の生演奏に合わせて、体全体で喜びを表現しながら準備運動、あるいはダンス競技を楽しむ子供たちの姿がとても印象的だった。そのような子供たちから、私も元気をもらったところである。その他の出席行事、出席予定行事については、一覧表のとおりである。

＜議　案＞

奥村教育長　　日程（４）議案は、本日は案件なし。

＜協　議＞

奥村教育長　　日程（５）協議事項は、本日は案件なし。

＜報　告＞

奥村教育長　　日程（６）報告事項である。

報告事項１　中学校部活動の地域展開（地域移行）の取組について

＜令和６年５月に策定した「沼津市部活動地域移行取組方針」に基づき、令和10年夏までに休日、令和13年夏までに平日の部活動の地域展開を目指し取組を進めている。今年度の主な取組について説明する。＞

（教育企画課長　資料に基づき説明）

奥村教育長　　説明が終わった。本件に対する御意見、御質問等いかがか。

重光委員　　もともとは、部活動の休日の活動を民間に委託するというイメージであったが、例えば、部活動がない学校の生徒もヌマカツへ参加することは可能か。また、部活動がある学校の生徒も、部活動に入らないでヌマカツに参加するということもあり得るのか。

教育企画課長　おっしゃるとおりである。学校の部活動とは違う活動という形になるため、子供たちが参加をしたいということであれば、ヌマカツのクラブで受け入れていくという形になる。ただし、人数の関係もあるため、例えばサッカーは、３つのクラブを作る予定であるが、どこのチームに入ってもよいとすると混乱するため、移行の最初の段階では、エリアごとのチームで受け入れる形にするなど、一定のルールを設けさせていただき、子供たちが活動できる環境を整えながら進めていく形をとっている。

奥村教育長　　報告事項１の３にある「部員数等の調査について」では、新１年生の部活動加入率が68%と約３分の１が未加入となっているのは、今、重光委員がおっしゃったとおり、２年後の夏以降を見込んでということが、この数字に表れていると思っている。ほかにいかがか。

川口委員　　今、重光委員がお聞きしたことと重複するが、確認させていただきたい。報告事項１の２「今年度の主な取組」の２つ目について、「サッカー、陸上競技の２

種目において、休日部活動を終了し地域クラブ活動「ヌマカツ」を開始」とあるが、９月からは現在、土曜日にやっている部活動も土日はやめてヌマカツでということか。また、ヌマカツに参加する生徒もいれば、参加しない生徒もいるような感じになっていくのか。

教育企画課長　別紙資料１のサッカーの参加率75.8%を御覧いただくと、これは学校の部活動に所属しているサッカー部の生徒が95人いた場合、その中でヌマカツに参加を希望した生徒は72人だったということである。この差し引きの生徒たちは、ヌマカツには参加しないということになる。部活動の地域展開を考える中で、平日にしか活動しない生徒、または休日しか活動しないという生徒もいるだろうという想定の中で実施をしている。そのため、サッカーについては、例えば平日は学校での部活動として活動するが、休日の部活動には参加しないという生徒も出てくる。そうすると、試合に出ることはないというケースも出てくる。また、試合に出るということになると、クラブに所属してクラブとしての出場が原則にはなるが、別紙資料１の陸上競技を御覧いただくと、陸上競技については参加率が低い。種目の特性もあるが、陸上競技の場合、クラブに所属して大会に出場する際、１クラブから何人しか出場できないという枠がある。例えば、100メートルに出場する生徒は１クラブ２人までとなったときに、そこのクラブにたくさん人が集まってしまうと、大会に出場できない生徒が多く出てしまうということも起こり得る。そのようなことも想定しながら、関係者の皆様に御説明させていただいている。ヌマカツに参加しない生徒たちは、平日は学校で活動するが、休日の大会等はクラブに所属せずに自分たちで学校の名前でエントリーをして大会に参加することもあり得る。複雑ではあるが、学校の部活動として休日はやらないということにしているため、要は先生の帯同はないということになる。大会自体も柔軟になってきており、これまでは学校の顧問の先生が必ず帯同しなければ大会参加を認めなかったが、学校長の了解をもらった上で、保護者の帯同でも大会参加をよしとする事例も出てきている。陸上競技の生徒では、平日は学校で活動するが、休日はヌマカツなどクラブには所属しない。ただ大会には参加したいという生徒は、保護者の方が学校に了解をもらった上で保護者が同行して大会にエントリーし出場できるというケースも出てきているのが実態としてある。

川口委員　もう１点、会費についてお尋ねしたい。サッカーは月3,300円で入会金や年会費は別途で、陸上競技は１回1,000円となっている。今後さらにヌマカツが進んでいく中で、いろんなところでお金がかかってくると思うが、御家庭の状況によってはなかなか厳しいということもあると思う。そのあたりの補助や支援については何か考えているのか。

教育企画課長　御指摘のとおり、国からもお金を理由に活動したい子が活動できないことはないようにと、そこは行政や公的な機関が支援をするようにと方向性が示されている。このため、沼津市においても先行するサッカーや陸上競技の事例を参考にしながら、具体的に困窮世帯への支援制度の取組を進めたいと考えている。

奥村教育長　この事業が始まる前に、国の方針の一つとして教員の働き方改革や、子供が生涯を通じて体を動かしたり、文化や芸術に触れたりする活動の機会を、困窮し

ていることによって失わせることがないよう、「子供ファースト」で展開していこうという大きな狙いがあった。その点についても、沼津市としては対応していくという話であった。もう一つ、ヌマカツ推進事務局の活動内容が出ていたが、子供たちが多様化していく中で、今までにないような活動、子供たちがやってみたいと思うような活動については、今後どういう形でこれが取り込まれていくのか、わかる範囲で教えていただきたい。

教育企画課長　今回、ヌマカツ推進事務局を設置した目的であるが、学校に代わりクラブが運営をしていくことになる。このようなクラブを支援するという目的で設置をさせていただいた。今、教育長のお話にあったとおり、これまでの部活動にはない様々な種目や文化活動、例えば生涯学習で取り扱うような教室等も、中学生を受け入れて、それをクラブ活動としてやろうということになると思っている。先日、掛川市の事例が静岡新聞にも出ていたが、今までの部活動にはなかった種目等があり、今の子供たちの興味をそそるような活動がさらに出てくると思っている。我々がこの事務局を設置することで、そのような新しいクラブの把握、紹介等を行いながら、保護者や子供たちへ安全安心なクラブであることを保証する必要性があると思っている。そのため、例えば、ヌマカツクラブの指導者の研修制度等、ヌマカツとして活動する上で、これだけは必要最低限の指導の知識として持っていただきたいということも取り組みながら、子供たちの環境を整えるということを考えている。

奥村教育長　「貴き志を持つ人づくり」が我々の大きな目標であるので、例えば、休日に月に１回、地元のボランティアをやってみたいというようなボランティア部のようなクラブが子供たちの中から出てくるといいと思う。そのほかいかがか。

佐藤委員　別紙資料２のサッカーの会場が第二中学校になっているが、第二中学校そのものがなくなる時期が来るが、それはそのとき考えるのか。今はあるから第二中学校を会場にしているのか。

教育企画課長　おっしゃるとおりである。

佐藤委員　今まで学校主体でやってきた部活動が地域展開になっていくことが新しい形ということであるが、最終的な姿というのはどこに落ち着くのか。生徒たちにはいろんな選択肢があっていろんな体験ができるが、同時に言われているのは、教員の働き方改革であり、ややもすると教員の働き方改革の方が前面に出てしまって、教師の負担を少なくするために地域展開するのではないかという側面で語られる場面もあるかと思う。休日の部活動は生徒の参加は自由となり、保護者と自由に過ごす時間が持てるようになるというのが最終的な姿なのかというのが一つと、学校の部活動がなくなってクラブ活動になると、現在の中体連の試合の形式を変えていかないと成り立たないのではないかという疑問がある。また、教育長がおっしゃったように、今、決まっている活動というのは、多分こちら側が参加している人数が多いから、これらの活動をまず地域展開しようというような形で選択されたと思うが、文化振興課や生涯学習課も入っているので、その他の選択肢もあってもよいのではないかと思う。焼津市などは部活動の地域展開について、受け入れ可能な団体はあるかと呼びかけて、いくつもの団体が手を挙げているということも聞いているので、団体の募集というのは、

どうなるのか。

教育企画課長　まず、最初の御質問について、この地域展開の目的には、子供たちの活動の選択肢を増やすこともあれば、先生方の働き方改革という面もあり、両方の側面があると思っている。どちらか一方ということではなく、両方が課題としてある中で、地域展開を実施することで解決していこうという形になる。また、子供たちの活動のスタイルや形がどうなっていくのかは、様々なパターンが生まれてくると思う。これは種目だけではなく、活動のスタイル自体が変わってくる。例えば、現在は学校の部活動では、平日は３日、休日は１日活動し、大体週４日ぐらいの活動がスタンダードであるが、このスタンダードな形がどんどん変化していき、例えば平日は１日や２日しか活動しない、または休日しか活動しないなども考えられる。または、毎日活動するというパターンも考えられる。この種目を極めたいという生徒は、部活動ガイドラインの中で週４日に絞られている部活動をもっとやりたいから、週５日、６日やりたいということも考えられる。生徒たちや保護者の方がどういったやり方、何を選択していくかによって受け皿ができていく。そのため、一様にこういう形になると断言しにくい。様々な形ができることで子供たちの選択肢が広がることをイメージしている。二つ目の御質問の中体連のあり方についてであるが、御指摘のとおり、中体連の方では部活動の地域展開の動きの中で様々な議論がされている。大会のあり方については、今までは学校の顧問の先生が必ず帯同しなくてはいけなかったが、それを保護者の帯同も可能にする、その他にも民間クラブも中体連に出場できるが、一部の種目では可能となるなど、年々、中体連の方もルールの変更等がされてきている。部活動の地域展開が沼津市を含めていろいろなところで進んでいく中で、ルールは大幅に変わってくる。令和９年度の中体連頃から大幅に変わるのではないかと伺っている。最後の御質問についてであるが、スポーツだけではなく文化的なものを含め様々な活動があることはおっしゃるとおりである。今、我々も地域展開を進めていく中で、スポーツが先行しているが、それ以外の文化系の活動、例えば吹奏楽部は現在、実証事業を進めているが、吹奏楽部では活動場所の問題や学校の管理の問題等、難しい問題がある。一方で、美術部の活動は平日しか活動していない、ほとんど休日は活動を休みにしている。我々としては、スポーツに限らず文化系の活動も含めて、地域展開を進めていきたいと考えている。

奥村教育長　１年半ぐらい前に静岡新聞の取材を受けた際に、高校の部活動のあり方とどうリンクしているのかという話があった。特に私立高校は、学校の特色の一つとして、部活動にすごく力を入れているところがある。入学の制度によっては特待生制度もある。公立高校においては、裁量枠で何%と枠を設けて選抜をしている。中体連のあり方もそうであるが、高体連のあり方も今後どうなのか。いずれにしても、中学生にとっては重要な進路選択の一つの要件に部活動があるといってもおかしくないと思う。この学校のこの種目が強いから、この学校で３年間部活動をやってみたいという生徒もいると思う。そういった中で、ヌマカツでの活動を含め、子供たちに活動の選択肢を用意しているのが現状である。今後、高校の部活動とどう繋がっていくのか、ここが非常に重要だと思ってい

る。ほかにいかがか。なければ、本件については報告を受けたということで御了承願う。

報告事項２　沼津市立沼津高等学校入学者選抜のWeb出願について

＜沼津市立沼津高等学校では、県立高校におけるWeb出願による入学者選抜の実施を受け、同校の入学者選抜手続きが共通化されていることを踏まえ、県が構築するシステムを利用する形で、今年度よりWeb出願を導入する。県が運用する本システムは、今年度は試行期間として運用し、来年度から全県で本格実施が予定されている。＞

（教育企画課長　資料に基づき説明）

奥村教育長　説明が終わった。来年度からは全県で本格実施するが、今年度は試行ということで、指定地域として沼津市が選ばれているということであった。これは中等部入試に関しても同じであるのか。

教育企画課長　市立高校の中等部の入試については、Web出願ではない。県内の公立の中等部は市立高校の中等部を含めて全体で３校であるため、おそらく県も中等部のシステム利用については考えていないと思う。

重光委員　県全体がWeb出願になるので、それに相乗りする感じだと思うが、出願するときに、従来は紙に記入していたものが、今回から出願システムへ入力するとのことであるが、この出願システムへは、志願者が入力するのか中学校が入力するか。

市立高校事務長　従来の受検票の記入に関しては、受検者本人が行っていたため、中学校の生徒もしくは保護者が記入する形になる。中学校の方で作成する調査書については、中学校で作成しWebで申請するという形になる。

重光委員　受検票自体は、システムから志願者がそれぞれ打ち出して持参するという流れになるため、そこを志願者は忘れないようにしなくてはいけない。

川口委員　Web出願は私立の学校では割とどこもやっていると思う。私も過去にこの入力をしたことがあるが、中学生が入力するよりも親の方が入力するのではないか。なぜかというと、Webの入力は簡単なようでいて結構しっかりとしており、手順を踏まないと先に進めないようになっている。また、中学生だと何のことを言っているのか、子供だからわからないこともある。実際は親がやってもよいのか。

市立高校事務長　紙での場合もそうであるが、実際は中学生本人が記載をしている部分もあれば、出願書類の字を見ると保護者が書いている部分も見受けられる。そのため、Web出願であるため、そのあたりは親子で一緒に入力をしていくのではと想定をしている。

川口委員　学校の事務量はすごく減ると思う。学校の効率化という面ではすごく貢献をすることになると思う。

奥村教育長　私立の学校では、私が学校現場にいたときからWeb出願をやっていた。もう８年、９年経っている。そのほかいかがか。なければ、本件については報告を受けたということで御了承願う。

＜その他＞

奥村教育長　　日程（７）その他である。
何かあるか。なければ、残る日程は非公開とする。

---

報告事項３については、公表前の事項が含まれているため当日は非公開としたが、公開できることとなったため公開する。

報告事項３　令和７年度全国学力・学習状況調査について

＜令和７年４月17日、全国の小学校６年生、中学校３年生を対象に国語、算数・数学、理科で実施された令和７年度全国学力・学習状況調査の結果が公表された。各教科及び質問紙の状況について報告する。＞

（教職員研修センター所長　資料に基づき説明）

奥村教育長　　報告が終わった。御意見、御質問等いかがか。

佐藤委員　　「無解答率」という言葉が出てきているが、無解答だから答えていない、その割合が高いということか。もう一つ、沼津市は、小学生のときには全体的に静岡県や全国と比べて若干低いが、中学生になると高くなっている。なぜだとお考えか。

教職員研修センター所長　無解答率については、おっしゃるとおりである。沼津市の特徴については、ここ数年このような結果が毎年続いている。小学校の成果が出ていないようにもとられ、小学校では何をしているのかということにも繋がるかもしれないが、小学校での一つ一つの学びが、中学校で生徒自身の実力や成果として出ているのではないかと判断している。ただ、小学校で毎年このような傾向があるということは、やはり何かしらあるのではと推察できるため、今後も分析をしていかなければならないと強く感じている。

奥村教育長　　国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」は小学校では低いが、同じ事項は中学校では高くなっている。算数・数学の「数と式」「データの活用」は、小学校では共に低いが、中学校になると高くなっている。小学校６年生から中学校３年生で毎年同じような結果が出ており、なかなか教育の成果、結果が出るのには時間がかかるというようなことが言われる。小学校のときに基本的な学ぶ姿勢、関心・意欲・態度をしっかりと身につけていく中で、中学校の生活の中でそれが数字として表れているのかと思う。本日は速報ということであったが、今後のスケジュールをもう一度お示しいただけるか。

教職員研修センター所長　今後のスケジュールについては、資料の２に「調査結果の公表スケジュール」にお示ししたとおりで、９月８日、９月18日の検証改善委員会で、全ての教科や質問紙について検証する。その後、10月23日の定例教育委員会で正式に結果を御報告する予定である。

奥村教育長　　10月23日の定例教育委員会で正式な報告があるとのことであったが、先程、佐

藤委員のおっしゃっていた「なぜか」という点についても分析、考察をお願いしたい。そのほかいかがか。

重光委員　小学生の質問紙で、肯定的な回答の割合が低い質問で、「学校の授業時間以外で、普段１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」というのがあるが、これについては、私は低くてもよいと思っている。小学生で家で勉強する子はあまりいないのではないか、私もしたことがない。それよりも「自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありましたか」という質問が、肯定的な回答の割合が高かったということを、高く評価していただきたいと思った。沼津市は毎年、小学校の方が低く中学校の方が高いが、以前も言ったと思うが、中学生くらいになると、学校の勉強についていけず10点未満の点数しか取れないような生徒も出てくる。そういう生徒が増えると、平均点が下がっていく傾向にあるのではないか。そういう生徒が少ない方が全体の平均点が上がっていく傾向にあり、逆に10点未満の生徒がどんどん増えると、そのせいで平均点が下がってくる。各科目10点未満の生徒の割合を統計として出していけば、なぜ平均点が下がったのか、上がるのかということもわかるのではないかと思った。

奥村教育長　分析、考察をしていただき感謝申し上げる。決めつけるわけではないが、市内でも各学校によっては、日本語の指導を必要とするような外国にルーツを持つ子供が多い学校もある。そのような点でも、今言ったような点数に多少は影響があるかもしれない。ほかにいかがか。なければ、本件については報告を受けたということで御了承願う。

以上で、本日の定例会を閉会する。

午後　４時32分　閉会